

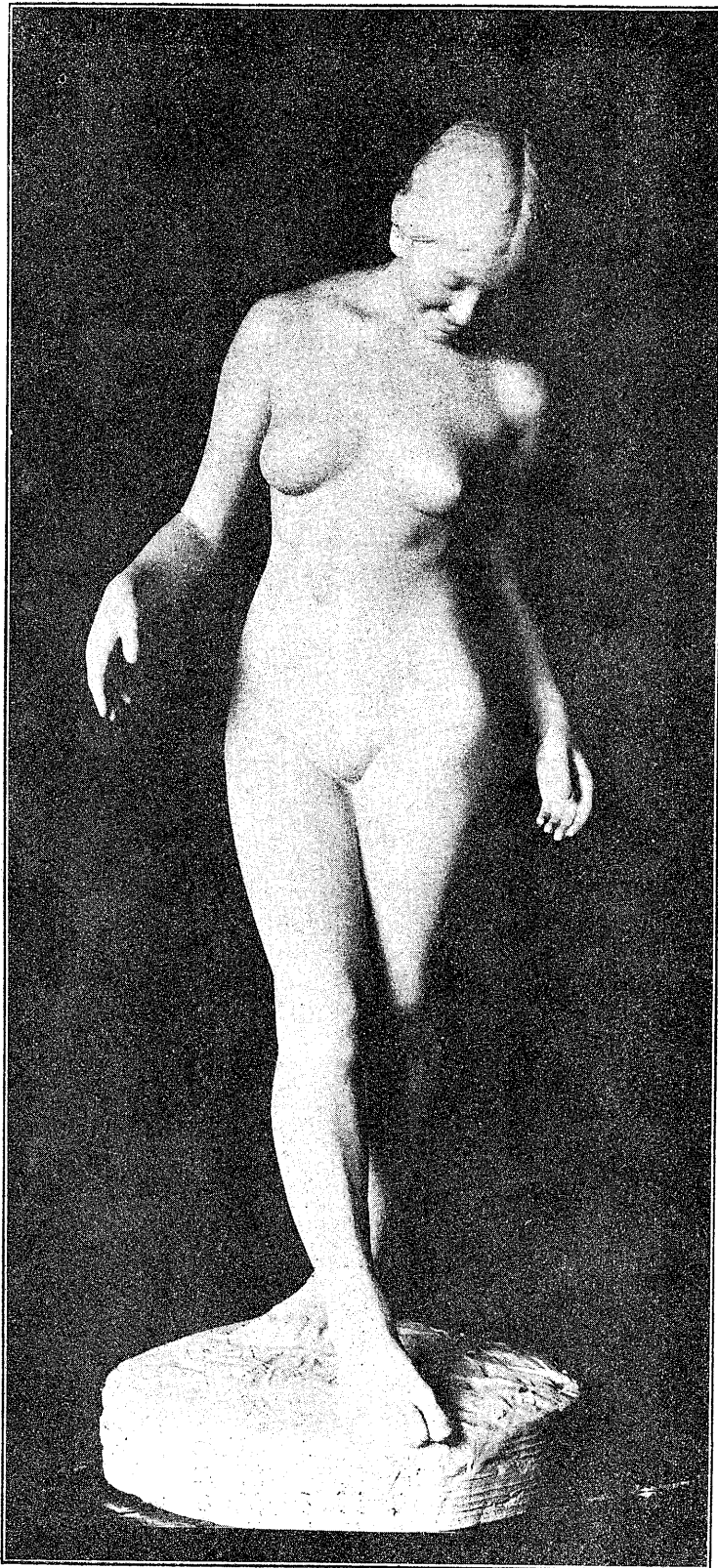


獅子鈕香爐 香取秀真氏作

試に昨年の氏が公表したる作品を概観して  
優秀の作品を列擧せんか、大正博覽會に出で  
たる瑞獸置物あり、三具足あり、吾樂の獅子  
鈕香爐あり、三越の獅子鈕香爐あり、鑄金會  
の圈足空漏文四耳花瓶あり、孰れも高古雅醇  
の韻致と氣品とを具へたるものにあらざるは  
なし。特に古調と生氣とを併せ有する瑞獸置  
物を以て之が代表作として、我等の賞美章を  
擬したるなり。

建築は姑く措き日本畫の如き、洋畫の如き、一年  
間幾千點の作品發表せられたるが故に、佳品秀作  
決して絶無と謂ふべからず。然れども、今尙ほ試作  
的の時期を脱せざるが爲にや、新奇なるも獨創に  
乏しきあり、内容を重んずと稱して毫も之を表現  
せざるあり、或は作爲に陥り、或は虚喝に走り、  
或は細工に流るゝものも尠からず。中には着實に  
故きを温ねて更に新意を出せるもあり、或は自然  
を師として自家の特趣を成せるものもなきにあら  
ず。然れども、不幸にして未だ吾人が、喜び進ん  
で、我等の賞美章を捧げんと欲するものはあらざ  
りき。吾人は切に今年の收穫の大に豊かならんこ  
とを祈る。

用して、能く深遠なる色  
を湛へしめ、渾厚なる味  
ひを含ましめ、其形容固  
より遒勁にして嚴肅の調  
を帯び、鑄肌の觸覺的快  
感に於ても、密徒らに密  
ならず、粗徒らに粗なら  
ざるの美あり、彼の平滑  
にして淺薄に、精巧にし  
て卑俗なる製品多き中に  
於て、含蓄饒く、氣品高  
く、優に藝術として鑒賞  
すべき氏の作品を有する  
は、我鑄金界の誇りなら  
ずや。



朝倉文夫氏作 いづみ